

平成30年度
議会報告会開催に伴う提言書

平成31年2月
栃木市議会

提言事項一覧

提言事項1	安心して利用できる斎場の早期建設について……………	2
提言事項2	給食費無償化実施における市民への説明について……	3
提言事項3	とちぎメディカルセンターしもつがの充実…………… (産科開設) について	4
提言事項4	通行者の安全に配慮した計画的な道路整備について …	5
提言事項5	子育て環境の充実について……………	6
提言事項6	安心・安全なまちづくりについて……………	7
提言事項7	創業支援の充実について……………	8

提 言 書

本市議会では、議会の活動をお知らせするとともに、市民の皆さまからご意見やご提案をお聞かせいただくため、議会基本条例第8条の規定に基づき、議会報告会を開催しています。

本年度で8年目となる議会報告会は、昨年10月に8会場で開催し、295名の方々にご参加いただきました。

また、各常任委員会においてテーマを設定し、テーマに沿った団体との意見交換会を実施したほか、新たな取り組みとして子育て世代を対象に活動している団体のイベントとコラボレーションし、子育て世代との意見交換会を実施しました。

議会報告会においては、斎場再整備や給食費無償化に関することをはじめ、市政全般にわたり、貴重なご意見・ご要望を数多くいただいたところであります。

今般、いただいたご意見・ご要望の中から、議会として特に喫緊の課題と考える事項について提言いたしますので、市といたしましても、十分にご配慮いただき、今後の市政運営にあたられますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、本市議会といたしましても、議会報告会でいただいたご意見・ご要望については、一般質問での政策提言や常任委員会等での審査を通して、議員活動に活かせるよう積極的に取り組んでまいります。

平成31年2月22日

栃木市長 大川 秀子 様

栃木市議会議長 大阿久 岩人

提言事項 1

安心して利用できる斎場の早期建設について

【市民の意見・要望等】

- 早急に建設してほしい。※同様の意見・要望ほか6件
- 斎場再整備検討委員会の報告が地域住民に対してされていない。地域の代表者が誰なのかも知らない。住民にもっと分かりやすく説明し、意見を聞くべきである。
- なぜ岩舟地域の南部清掃工場跡に決定したのか、評価の過程が見えてこない。評価表を住民に示した上で、説明してほしい。
- 栃木市で計画している斎場の式場は、20名程度と聞いているが、小山市には120名の式場がある。式場の拡大検討を要望する。
- 建設費を早く市民に提示すべきである。
- 南部清掃工場跡は土砂災害警戒区域に指定されているが、問題ないのか。
- 南部清掃工場跡に斎場を建設するならば、残土対策をしっかりやってほしい。
- 南部清掃工場跡周辺の道路は農道が多いため、道が狭く車のすれ違いができない場所もある。このような道路を整備すれば多くの費用がかかると思うので、よく考えた方がよい。
- 南部清掃工場跡の入口は急傾斜かつカーブしており危険である。信号機の設置や道路改良が必要と思う。

【議会としての提言】

新斎場建設地については、何度も検討を重ね、南部清掃工場跡に決定された。現斎場は、施設の老朽化などの問題を抱えており、早急な新斎場建設を求める意見が多く寄せられていることから、新斎場の早期建設に向けて努力されたい。

一方で、新斎場建設地については市の中心から離れておりバランスを欠いている、建設地決定までの評価の過程が見えないなどの意見も寄せられていることから、選定過程の情報公開を積極的に行うとともに、引き続き市民の理解が得られるよう十分な説明を行われたい。

また、新斎場建設地が土砂災害警戒区域に指定されていること、主要なアクセス道の冬季における路面凍結や道路の形状による交通事故、新斎場周辺の交通量の増加などを心配する声もあることから、市民が安心して利用できるように必要な対策を講じるよう努められたい。

【市民の意見・要望等】

- 実施すべきである。(市長公約である、少しでも負担軽減を図るべきである、段階的でも良いので早く実施すべきである)
- 実施すべきではない。(現在も生活保護や準要保護の家庭は無料である、子どもの食事は親の責任である、無償化は少子化対策とは言えない、地産地消で安心安全な給食であれば有料でも良い)
- 所得制限を設けるべきである。
- 見通しはあるのか。財政の健全化と相反するのではないか。
- 進捗状況はどうなっているのか。
- 独居老人の弁当代と給食費無償化について、両方の事業について計算した時、高齢者の宅配弁当の予算にどれくらい影響が出るのか。
- どのように進めるのか。
- 保育園の給食費無償化は検討されているのか。

【議会としての提言】

市長公約である給食費無償化についての市民の関心は高く、実施に高い期待を寄せる市民がいる一方で、主に財政面への不安から実施に慎重な姿勢を示す市民も多いことから、実施にあたっては市民への丁寧な説明を行うよう努められたい。

また、実施の具体的な内容については検討中とのことだが、今回の議会報告会において、進捗状況を問う声が多かったことから、市民に対してなるべく早期に具体的な実施内容を示すよう努められたい。

提言事項3	とちぎメディカルセンターしもつがの充実（産科開設） について
<p>【市民の意見・要望等】</p> <ul style="list-style-type: none"> • とちぎメディカルセンターに産科がないので、将来的に心配である。 • 栃木市には産婦人科がない。子育ての前に産むところを整備してほしい。 • 独自のアンケートでは産科の設置を望む声が多いので、早急に設置してほしい。 • 産科が1か所しかないのに、出生率を上げるのは難しいのではないか。 • 出産に関して女性が安心して産める医療を整備してほしい。 • 産婦人科が栃木市に1か所しかないので、診察の待ち時間が長い。産婦人科を増やしてほしい。 • 産科設置の進捗状況はどうなっているのか。 • 医療スタッフについて、多くの患者を診察しなければならない時間的制約があるので、細かな診察ができないという話を聞いている。 	
<p>【議会としての提言】</p> <p>産科医の不足は全国的に深刻な問題となっている。本市においても分娩が行える医療機関は1か所のみであり、身近な場所で安心して出産できる環境の整備が急務となっていることから、とちぎメディカルセンターしもつがへの産科の設置に向けて支援を図られたい。</p> <p>また、他の診療科目についても、より質の高い医療を提供できるよう医療スタッフが働きやすい環境の整備や業務改善を要望されたい。</p>	

提言事項4

通行者の安全に配慮した計画的な道路整備について

【市民の意見・要望等】

- 生活道路は防塵舗装が多く、傷みが激しい箇所が多い。補修工事と本舗装への切り替えをしてほしい。
- 舗装面のデコボコが多いので、修繕してほしい。
- 通学路に歩行者ゾーンと自転車ゾーンの色分けをしてほしい。
- 北武井地内の通学路にガードレールを設置してほしい。
- 道路を修繕してほしい。
- 現道の拡幅工事ができないか。
- 道路の舗装工事の要望をしても返答がないので改善してほしい。

【議会としての提言】

市民生活に密着した道路整備については、通行者の安全面での配慮や拡幅、修繕を求める声など多くの意見が寄せられている。限られた財源の中で、将来にわたって安定した管理ができるよう定期的に巡回点検を行い、通行者の安全性や利便性に配慮した道路整備を計画的に進めるよう努められたい。

また、国道・県道についても管理者と十分な協議を行い、安全対策を要望されたい。

【市民の意見・要望等】

- 保育園や学童保育の時間延長を検討してほしい。
- 子育て支援について色々と事業を行っているが、重要なことは支援を必要としている人がどれくらいの支援を受けられているのか、市が支援の必要がある人を把握するためにどのような体制をとっているのかということである。母子保健推進員による声掛けなど、支援体制を充実させるべきである。
- 親同士のコミュニケーションが取れない親がいて、それが子どもにも影響を与えている。そのような親への支援が必要である。
- 視覚障がい児を育てており、市内の小学校に通うことを望んでいる。特別な施設をつくってほしい訳ではなく、現在市内にある学校を利用して、視覚障がい児の就学について積極的に対応してもらいたい。
- 子どもが学校に行かない選択をした事には、一人ひとり違う理由がある。特に理由はなく気質や体調が原因で行けない場合もある。学びの場が学校だけではないこと、家でもフリースクールでも全く問題はないという考えを市全体（学校・行政・保護者）で持てるまちづくりをしてほしい。
- 子育てしやすい街というのは、悩みを持ったとき、すぐ相談できる場所があり、安心できることだと思う。行政、市議会議員、民間がネットワークを拡大し、共有していくことで、予算をかけなくてもできる事業が多くあると思う。

【議会としての提言】

子育て支援については、本市においても様々なサービスが提供されているが、それらを効果的に運用するため、分かりやすい情報発信や利便性の向上に加え、支援が必要な人を的確に把握するための体制を整備するよう努められたい。

また、子育てに関し保護者の心のサポートをする相談窓口を充実させ、安心して子育てできる環境を整備するよう努められたい。

また、学校については、視覚障がい者等のすべての障がい者が地元での就学も選択できるように特別支援学級の受け入れ体制の充実を図られたい。

さらに、様々な理由により学校に通えない子どもたちの居場所を確保するため、学校という場所にとらわれず、民間と連携し幅広く検討を行うよう努められたい。

提言事項6

安心・安全なまちづくりについて

【市民の意見・要望等】

○防災について

- ・自主防災組織を設立した後、補助金2万円では何もできない。
- ・災害は広範囲にわたることが多いので、小さな自治会では、町内を越えた訓練、協力体制の必要性を感じている。
- ・西前原排水機場の安全性について、以前の豪雨災害時に故障している。

○空き家について

- ・空き家が多いため、最近の3年間は、空き家対策をテーマに活動しており、不法侵入者や焚火の取り締まりなどを実施した。
- ・解体費の補助金50万円はよほど古い住宅でないと適用にならないため、ハードルをもう少し緩くしていただきたい。
- ・イベント会場でブースを作って相談会を実施してはどうかと考えている。

○交通について

- ・ふれあいバスを曲ヶ島にも通るようにしてほしい。
- ・ふれあいバスは小山、佐野など隣接する所までお互いに乗り合いできると良い。
- ・重量のある電動車いすに対応した福祉バス導入を検討してほしい。
- ・デマンドタクシー、蔵タクは需要が多い。民間に委託して365日運用している自治体はたくさんある。ぜひ、考えてほしい。公共交通と障がい者の交通機関利用を別に考えてほしい。

【議会としての提言】

災害発生時には、行政による公助のみでは限界があることから、自助・共助による防災活動も重要である。その担い手である自主防災組織への支援の拡大や自主防災組織間の横のつながりの強化等を通して、地域防災力の向上に努められたい。

また、河川の浚渫工事や排水施設の修繕を求める声も寄せられたことから、計画的に実施するとともに、関係機関へ対策を要望されたい。

適正に管理されていない空き家は防災・防犯上のリスクが高まり、まちづくりに悪影響を及ぼすことが指摘されている。本市においては、先進的に空き家対策に取り組み成果をあげているが、課題を整理し、引き続き対策に取り組みされたい。

高齢者や障がい者等のいわゆる交通弱者にとって、ふれあいバス等の公共交通は主要な生活の足となっていることから、福祉施策として継続するとともに、隣接市町との連携や路線の見直し等の利便性の向上に努められたい。

【市民の意見・要望等】

○空き店舗活用促進事業補助金について

- ・補助の対象地域がもっと広がると良いと思った。
- ・専門家の相談については、どういう人に相談できるのかが重要だと思う。中小企業診断士では平均的な数値を示すだけになる。同じ仕事をしている人とつないでくれる窓口があった方が良い。

○空き物件の活用について

- ・栃木市でお店をやりたいと思っている人から「栃木市は物件が借りられない」という話をよく聞く。その割に使ってなさそうな物件がたくさんあるので、空き物件を借りやすくしてもらえる支援があれば、新規出店が加速していくと思う。
- ・空き家バンクの物件は売買が多い。賃貸物件の情報も増えれば、開業する物件の窓口が広がる。

○創業支援策について

- ・働く人材が少ないので、小中学生よりも働く直前の高校生などに職場体験の機会を設けてもらいたい。
- ・市内には大学生があまりいない。平日の昼間に10代後半から20代前半のお客はほとんどみかけない。大きな話になってしまうが、大学や専門学校を誘致するとか、その辺の世代が地元に残れる仕組みがあると集客的にも働く人材としてもありがたい。

【議会としての提言】

地域経済の振興には既存の産業への支援に加え、新しい産業の創出や創業者への支援を行い、新たな雇用を創出することも必要である。

栃木市で創業するにあたり、創業する物件の確保が困難であるとの意見が寄せられている。本市においては空き店舗活用促進事業補助金があるが、補助対象地域が限られているため、対象地域の拡大を検討されたい。また、空き物件の活用について、貸し手と借り手のマッチングが課題となっていることから、空き家バンクと連携し賃貸物件の充実を図るなど対策を講じられたい。

また、相談については、中小企業診断士等による数値的な相談以外にも、その業種ごとの専門的な相談を望む意見が寄せられているので、関係機関と連携して検討されたい。

さらに、持続的な発展のために働く人材の確保や育成に取り組まれたい。